

# 2021年 紙・板紙内需試算報告

2021年1月20日

日本製紙連合会

- I . 2020年 紙・板紙内需実績見込み……………P3
- II . 2021年 紙・板紙内需試算……………P4～5
- III . 2021年 主要品種別内需試算……………P6～16
- IV . 参 考……………P17～20

# JPA I. 2020年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%) [参考]

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		20年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	2009年 実績 (リーマン後)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)				
紙	新聞用紙	2,091,177	▲13.2	0	▲100.0	2,091,177	▲13.2	—	2,091,177	▲13.2	▲6.0	▲7.2	▲6.0
	非塗工印刷用紙	1,515,678	▲15.5	41,687	▲28.5	1,557,365	▲15.9	▲22,019	1,579,384	▲13.9	▲4.0	▲9.9	▲8.7
	塗工印刷用紙	2,899,263	▲22.6	209,269	▲56.8	3,108,532	▲26.5	▲124,231	3,232,763	▲21.0	▲5.0	▲16.0	▲12.6
	情報用紙	1,140,244	▲14.8	437,329	▲5.8	1,577,573	▲12.5	▲10,631	1,588,204	▲11.4	▲1.0	▲10.4	▲8.1
	印刷・情報用紙計	5,555,185	▲19.2	688,285	▲31.7	6,243,470	▲20.8	▲156,881	6,400,351	▲17.1	▲3.8	▲13.3	▲10.8
	未ざらし包装紙	404,897	▲11.6	6,120	+1.9	411,017	▲11.5	▲914	411,931	▲11.1	▲1.1	▲10.0	▲16.5
	ざらし包装紙	193,561	▲19.6	1,200	+4.3	194,761	▲19.5	▲2,969	197,730	▲17.9	▲0.6	▲17.3	▲18.0
	包装用紙計	598,458	▲14.4	7,320	+2.3	605,778	▲14.2	▲3,883	609,661	▲13.4	▲0.9	▲12.5	▲17.1
	衛生用紙	1,826,998	▲0.0	217,219	▲2.2	2,044,217	▲0.3	—	2,044,217	▲0.3	+0.8	▲1.1	+0.2
	紙 計	10,661,372	▲14.7	927,288	▲25.9	11,588,660	▲15.7	▲160,764	11,749,424	▲13.4	▲3.2	▲10.2	▲9.2
板紙	ライナー	5,298,085	▲3.6	31,034	▲12.4	5,329,119	▲3.7	▲1,156	5,330,275	▲3.6	+0.5	▲4.1	▲8.4
	中芯原紙	3,481,643	▲3.9	10,990	+17.7	3,492,633	▲3.9	529	3,492,104	▲3.9	+0.5	▲4.4	▲8.8
	段ボール原紙計	8,779,728	▲3.7	42,024	▲6.2	8,821,752	▲3.8	▲627	8,822,379	▲3.8	+0.5	▲4.3	▲8.6
	白板紙	1,241,687	▲11.5	405,589	▲3.2	1,647,276	▲9.5	▲10,559	1,657,835	▲9.2	▲1.8	▲7.4	▲7.4
	紙器用板紙	1,357,369	▲11.7	405,589	▲3.2	1,762,958	▲9.8	▲10,688	1,773,646	▲9.5	▲1.8	▲7.7	▲8.2
	板紙計	10,718,117	▲5.2	457,098	▲3.7	11,175,215	▲5.1	▲12,105	11,187,320	▲5.1	+0.1	▲5.2	▲9.3
紙・板紙計	21,379,489	▲10.2	1,384,386	▲19.8	22,763,875	▲10.8	▲172,869	22,936,744	▲9.6	▲1.7	▲7.9	▲9.2	
グラフィック用紙	7,646,362	▲17.7	688,285	▲31.7	8,334,647	▲19.0	▲156,881	8,491,528	▲16.1	▲4.3	▲11.8	▲9.6	
パッケージング用紙	11,906,129	▲6.1	478,882	▲3.5	12,385,011	▲6.0	▲15,988	12,400,999	▲5.9	+0.0	▲5.9	▲10.1	

(注) 1) 紙計に雑種紙を含む。紙器用板紙計に黄チップ・色板を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

2) 「グラフィック用紙」=新聞用紙+印刷・情報用紙、「パッケージング用紙」=包装用紙+段ボール原紙+紙器用板紙+雑種紙+その他の板紙。

# JPA II. 2021年紙・板紙内需試算 ①増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気は、コロナ禍の影響が続くも、緩やかな回復基調</p> <p>②イベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック(7-8月)</li> <li>・東京パラリンピック(8-9月)</li> <li>・衆議院選挙(10月までに実施)、等</li> </ul> <p>③ネット通販の拡大</p> <p>④食品・医薬・健康関連市場は安定</p> <p>⑤脱プラスチックによる紙化の動き</p> <p>⑥コロナ禍による衛生意識の高まり</p> <p>⑦前年の人の移動制限等経済活動の停止等による極端な需要の落ち込みの反動</p>	<p>①構造的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人口の減少／少子高齢化</li> <li>■情報・広告分野を中心にデジタル化加速の影響             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、雑誌向けの減少</li> <li>・企業や自治体等の使用量の減少、ペーパーレス化 (コストダウン強化、環境対応)</li> <li>・スマートフォン等の利用拡大(コンテンツの充実)</li> </ul> </li> <li>■包装様式の変化             <ul style="list-style-type: none"> <li>・省包装／簡易包装化</li> <li>・軟包装化等包装資材の他素材へのシフト(材質変更)</li> <li>・マイバッグの浸透・定着</li> </ul> </li> </ul> <p>②うるう年の反動</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             コロナ禍の影響による働き方・消費行動の変容           </div>	

# JPA ②実績推移及び見通し

(単位:千トン、%)

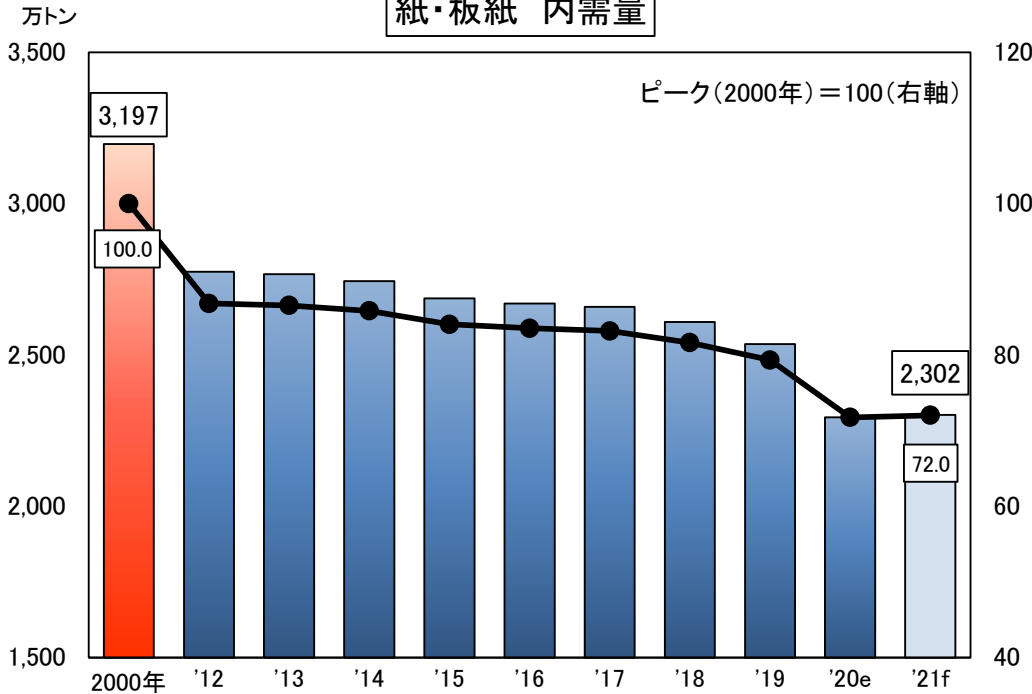
	品 種	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年見込み		2021年見通し		
			前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	前年比	前々年比	
紙	新聞用紙	3,247	▲1.7	3,181	▲2.0	3,033	▲4.6	2,926	▲3.5	2,777	▲5.1	2,609	▲6.1	2,409	▲7.7	2,091	▲13.2	1,986	▲5.0	▲17.5
	非塗工印刷用紙	2,301	▲2.1	2,230	▲3.1	2,125	▲4.7	2,091	▲1.6	2,031	▲2.9	1,912	▲5.9	1,834	▲4.1	1,579	▲13.9	1,587	+0.5	▲13.5
	塗工印刷用紙	5,391	▲1.5	5,170	▲4.1	4,954	▲4.2	4,743	▲4.3	4,598	▲3.1	4,296	▲6.6	4,090	▲4.8	3,233	▲21.0	3,265	+1.0	▲20.2
	情報用紙	1,839	▲0.6	1,831	▲0.5	1,813	▲1.0	1,836	+1.3	1,805	▲1.7	1,811	+0.3	1,793	▲1.0	1,588	▲11.4	1,588	+0.0	▲11.4
	印刷・情報用紙計	9,531	▲1.5	9,231	▲3.2	8,893	▲3.7	8,670	▲2.5	8,434	▲2.7	8,019	▲4.9	7,717	▲3.8	6,400	▲17.1	6,441	+0.6	▲16.5
	未ざらし包装紙	492	▲1.5	496	+0.9	471	▲5.0	468	▲0.8	469	+0.3	474	+1.1	463	▲2.3	412	▲11.1	406	▲1.5	▲12.4
	さらし包装紙	269	▲2.6	270	+0.1	258	▲4.4	249	▲3.5	245	▲1.6	249	+1.8	241	▲3.3	198	▲17.9	193	▲2.5	▲20.0
	包装用紙	761	▲1.9	766	+0.6	729	▲4.8	717	▲1.7	714	▲0.4	723	+1.3	704	▲2.6	610	▲13.4	599	▲1.8	▲15.0
	衛生用紙	1,895	+0.8	1,945	+2.6	1,946	+0.1	1,994	+2.5	1,994	▲0.0	1,974	▲1.0	2,050	+3.8	2,044	▲0.3	2,064	+1.0	+0.7
	<b>紙 計</b>	<b>16,162</b>	<b>▲1.3</b>	<b>15,880</b>	<b>▲1.7</b>	<b>15,348</b>	<b>▲3.3</b>	<b>15,037</b>	<b>▲2.0</b>	<b>14,695</b>	<b>▲2.3</b>	<b>14,069</b>	<b>▲4.3</b>	<b>13,574</b>	<b>▲3.5</b>	<b>11,749</b>	<b>▲13.4</b>	<b>11,700</b>	<b>▲0.4</b>	<b>▲13.8</b>
板	ライナー	5,276	+1.3	5,330	+1.0	5,336	+0.1	5,431	+1.8	5,553	+2.2	5,614	+1.1	5,531	▲1.5	5,330	▲3.6	5,389	+1.1	▲2.6
	中芯原紙	3,511	+1.0	3,547	+1.0	3,549	+0.1	3,590	+1.2	3,652	+1.7	3,700	+1.3	3,636	▲1.7	3,492	▲3.9	3,531	+1.1	▲2.9
	段ボール原紙計	8,788	+1.2	8,877	+1.0	8,884	+0.1	9,022	+1.5	9,204	+2.0	9,314	+1.2	9,167	▲1.6	8,822	▲3.8	8,919	+1.1	▲2.7
	白板紙	1,901	+0.7	1,858	▲2.3	1,838	▲1.0	1,856	+1.0	1,884	+1.5	1,886	+0.1	1,825	▲3.2	1,658	▲9.2	1,690	+2.0	▲7.4
	紙器用板紙計	2,046	+0.7	2,004	▲2.0	1,983	▲1.1	1,999	+0.8	2,026	+1.3	2,029	+0.2	1,960	▲3.4	1,774	▲9.5	1,806	+1.8	▲7.9
		<b>板 紙 計</b>	<b>11,503</b>	<b>+1.2</b>	<b>11,555</b>	<b>+0.5</b>	<b>11,517</b>	<b>▲0.3</b>	<b>11,665</b>	<b>+1.3</b>	<b>11,892</b>	<b>+1.9</b>	<b>12,025</b>	<b>+1.1</b>	<b>11,785</b>	<b>▲2.0</b>	<b>11,187</b>	<b>▲5.1</b>	<b>11,323</b>	<b>+1.2</b>
	<b>紙・板紙計</b>	<b>27,665</b>	<b>▲0.3</b>	<b>27,434</b>	<b>▲0.8</b>	<b>26,866</b>	<b>▲2.1</b>	<b>26,702</b>	<b>▲0.6</b>	<b>26,587</b>	<b>▲0.4</b>	<b>26,094</b>	<b>▲1.9</b>	<b>25,359</b>	<b>▲2.8</b>	<b>22,937</b>	<b>▲9.6</b>	<b>23,023</b>	<b>+0.4</b>	<b>▲9.2</b>
	グラフィック用紙	12,778	▲1.6	12,411	▲2.9	11,926	▲3.9	11,596	▲2.8	11,212	▲3.3	10,628	▲5.2	10,126	▲4.7	8,492	▲16.1	8,427	▲0.8	▲16.8
	パッケージング用紙	12,992	+0.8	13,078	+0.7	12,994	▲0.6	13,112	+0.9	13,381	+2.1	13,492	+0.8	13,184	▲2.3	12,401	▲5.9	12,532	+1.1	▲4.9

(注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。対前年比、前々年比はトンベースによる。

紙計に雑種紙を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

# JPA Ⅲ. 2021年 主要品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

紙・板紙 内需量



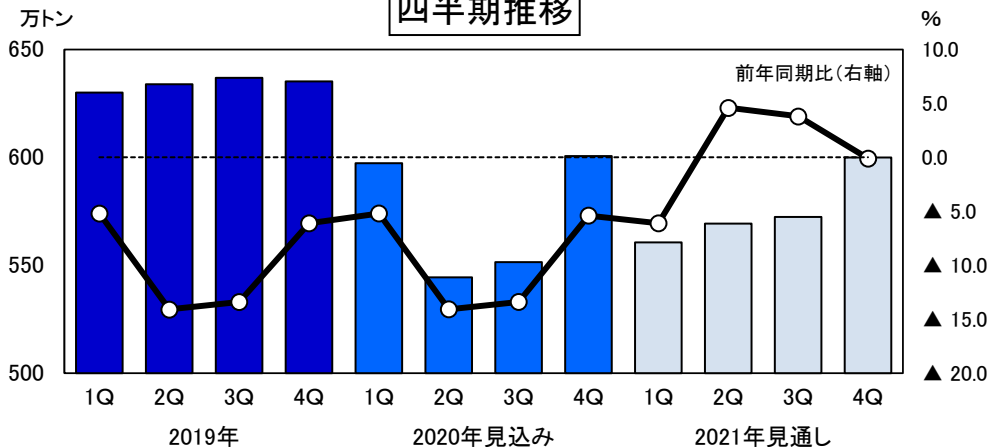
## 「近年の動向」

★紙・板紙の内需は、2011年以降マイナスで推移している。コロナ禍の影響を受けた2020年は減少ペースが加速し、前年に対し9.6%減と、リーマン・ショック直後の2009年(9.2%減)を上回るマイナス幅となった。グラフィック用紙が大幅減となり、パッケージング用紙についても包装用紙や白板紙を中心に減少したことによる。

## 「2021年予測」

☆デジタル化等の構造要因による下押し圧力は継続する。コロナ禍で2020年に極端に落ち込んだ商業印刷については反動増が見込まれるものの、不透明感も強い。一方、ネット通販等堅調な需要分野もある。コロナ禍は、衛生意識の高まりによるタオル用紙の需要増といったプラス面もある。また、脱プラスチックによる紙化の動きも期待される。

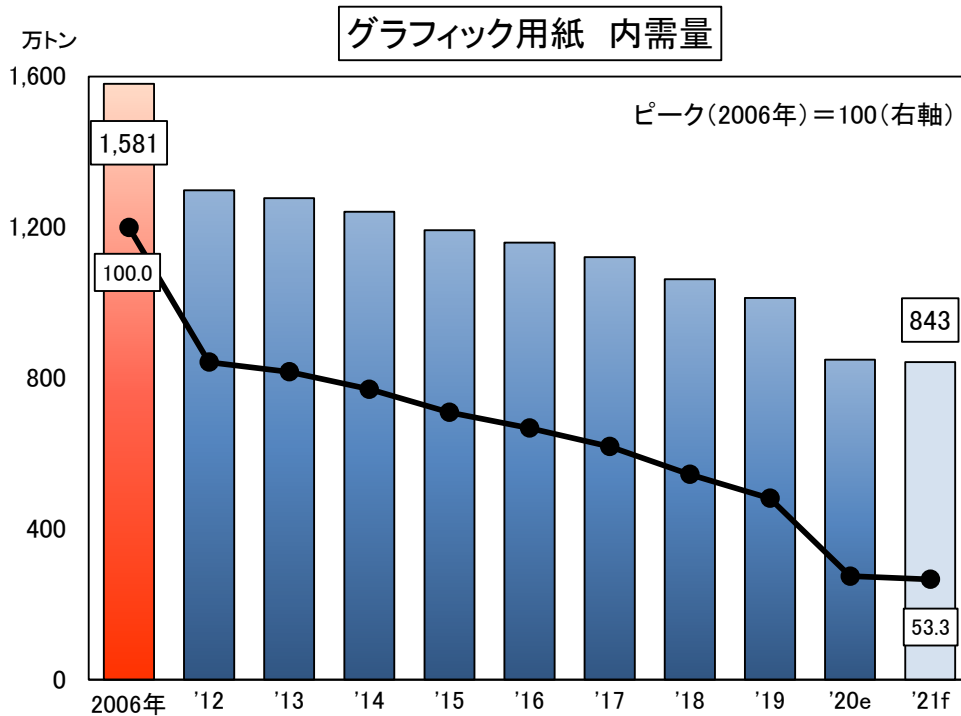
四半期推移



☆品種別試算結果を積み上げると、紙・板紙合計で2,302万トン、前年に対し0.4%増となる。用途別では、グラフィック用紙が0.8%減、パッケージング用紙が1.1%増、衛生用紙が1.0%増と予測。紙・板紙合計として、11年ぶりのプラスを見込むも、前年の落ち込みに比べ増加幅は小さく、前々年比では9.2%減にとどまる。また、過去のピークだった2000年(3,197万トン)に対しては、7割強の水準となる。

☆四半期別では、1-3月はマイナスだが、前年が低水準だった4-6月、7-9月はプラス、10-12月はほぼ前年並みと見込んだ。

# JPA (2) グラフィック用紙



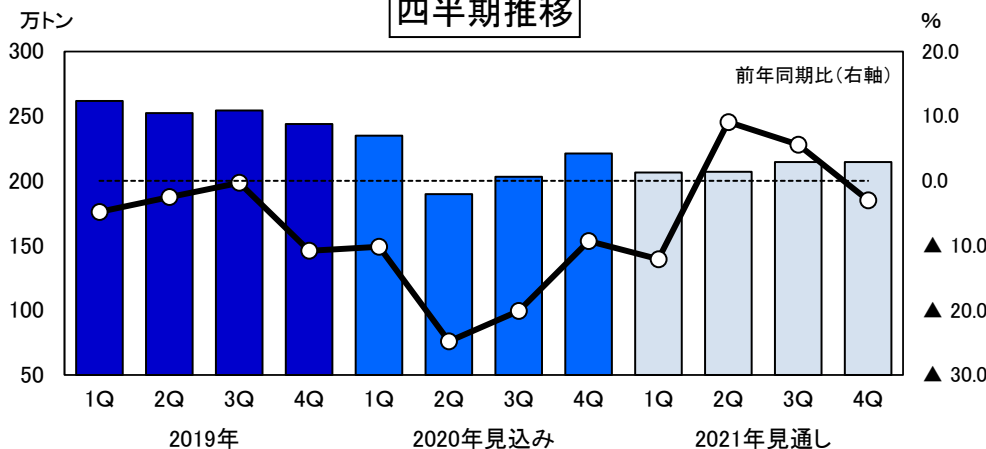
## 「近年の動向」

★グラフィック用紙の内需は、2007年以降マイナスで推移している。コロナ禍の影響を受けた2020年は減少ペースが加速し、前年に対し16.1%減と、リーマン・ショック直後の2009年(9.6%減)を上回るマイナス幅となった。新聞用紙、印刷用紙(非塗工、塗工)、情報用紙ともに2桁のマイナス、特に塗工印刷用紙の減少が目立った。

## 「2021年予測」

☆新聞用紙、印刷・情報用紙ともにデジタル化等の構造要因による下押し圧力は継続すると予想。一方、コロナ禍で2020年に極端に落ち込んだ商業印刷は反動増が見込まれるものの、不透明感も強い。

### 四半期推移



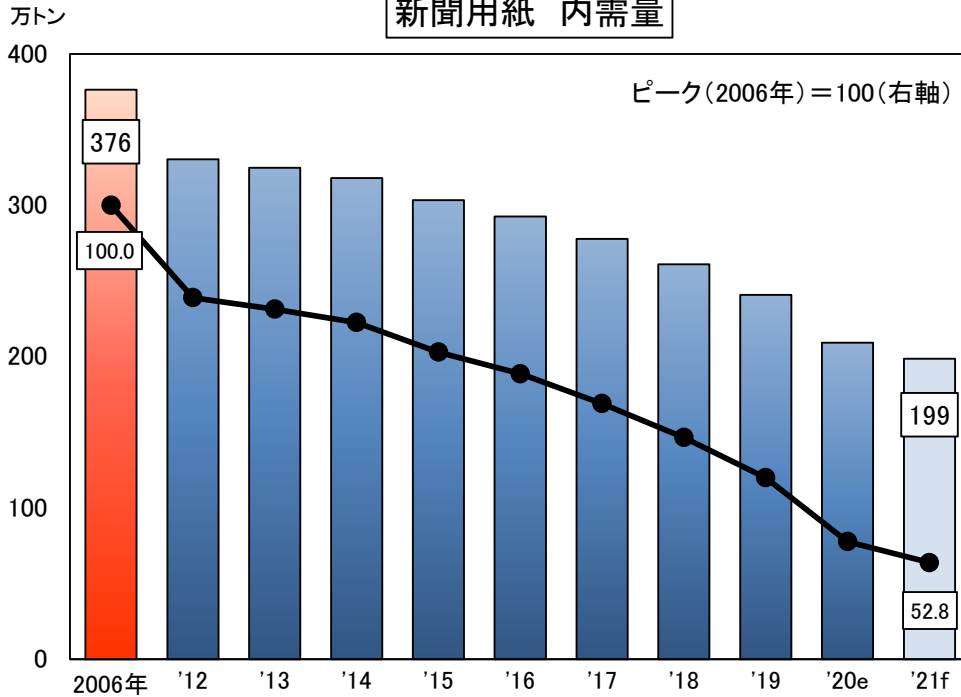
☆品種別試算結果を積み上げると、グラフィック用紙合計で843万トン、前年に対し0.8%減となる。用途別では、新聞用紙が5.0%減、非塗工印刷用紙が0.5%増、塗工印刷用紙が1.0%増、情報用紙が0.0%(横ばい)と予測。グラフィック用紙合計としては、15年連続の減少を見込む。また、前々年比では16.8%減、過去のピークだった2006年(1,581万トン)に対しては、5割強の水準となる。

☆四半期別では、1-3月はマイナスだが、前年が低水準だった4-6月、7-9月はプラス、10-12月は前年を若干下回ると見込んだ。

☆詳細については当該品種頁参照。

# JPA (2) - ① 新聞用紙

新聞用紙 内需量



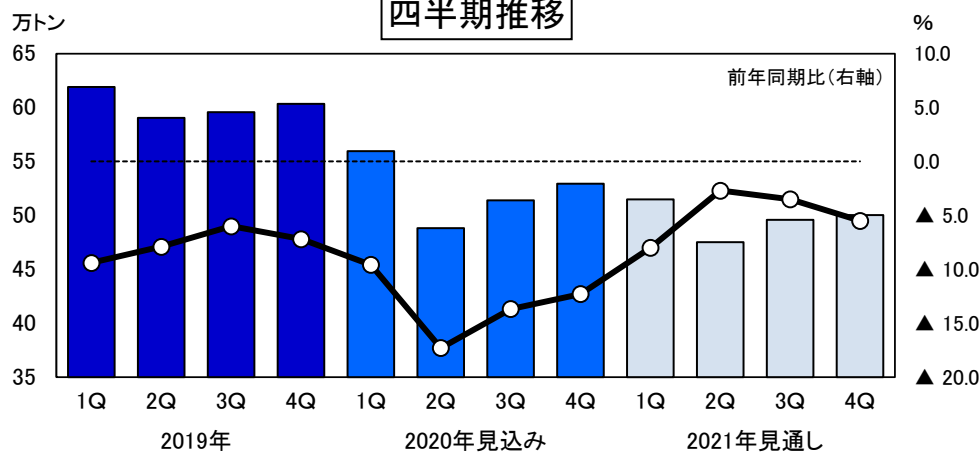
## 「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2020年については、うるう年による発行日数増があったものの、コロナ禍による広告出稿急減の影響から頁数が低水準で、発行部数も減少したことから、内需は前年に対し13.2%減と大きく落ち込んだ。

## 「2021年予測」

☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。うち、発行部数は引き続き減少が見込まれる。頁数は、広告出稿について前年の極端な落ち込みからの反動が予想されることから、前年を上回る見込みだが、内需に与える影響は、発行部数減の方が大きい。スポット要因としては、東京オリンピック・パラリンピックや衆議院選挙が挙げられるが、内需の押し上げ効果は限定的だと予想される。また、朝刊の発行日数1日減もマイナス要因となる。

四半期推移



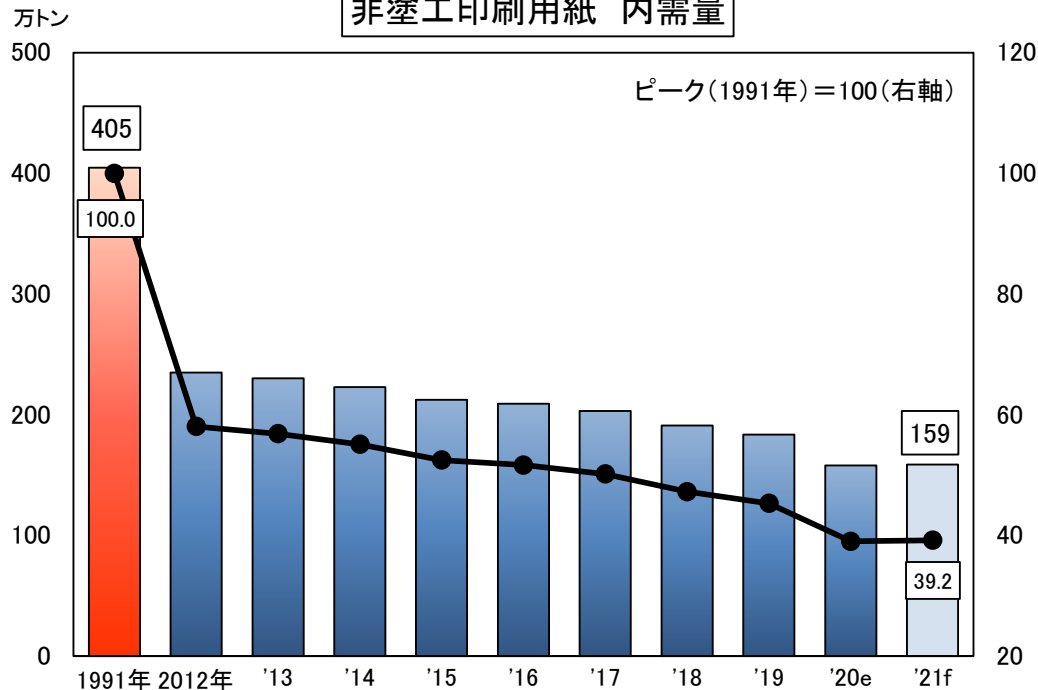
☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し5.0%の減少を見込んだ。前々年比では17.5%減、過去のピークだった2006年に対しては、5割強の水準。

☆四半期別でもマイナスで推移すると予想。マイナス幅は、1-3月に比べ、4-6月については前年が極めて低水準だったことから縮小するが、7-9月以降はやや拡大する見通し。



# JPA (2) - ② 非塗工印刷用紙

非塗工印刷用紙 内需量



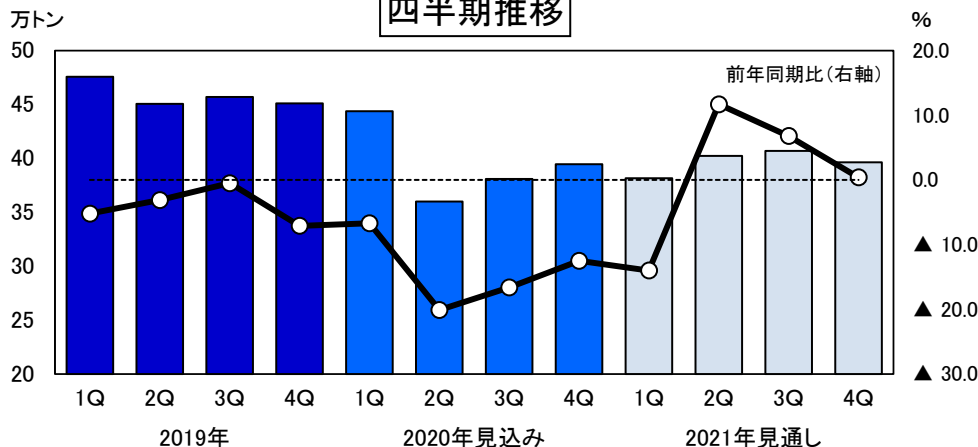
## 「近年の動向」

★非塗工印刷用紙の内需は、デジタル化の影響を受け、縮小が続いている。2020年はコロナ禍による各種イベント等の中止・延期の影響から商業印刷関係の需要が減少したこと、雑誌の発売中止・延期等により出版関係の需要も減少したことから、内需は前年比13.9%減と大きく落ち込んだ。

## 「2021年予測」

☆品種別にみると、上級印刷紙は汎用性が高く、学習参考書など分野によっては底堅い需要も見られるが、全体ではデジタル化の動きが加速することから、前年の大幅な落ち込みの反動増は限定的と予想される。中・下級印刷紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然厳しく部数の減少が続いている。コミックスでは前年に続き、ヒット作品の出現による押し上げ効果も期待できるが、全体としては、デジタル化の加速による情報源や娯楽の多様化等により引き続き不振が予想される。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催による需要の押し上げ効果は、ごく僅かと見た。

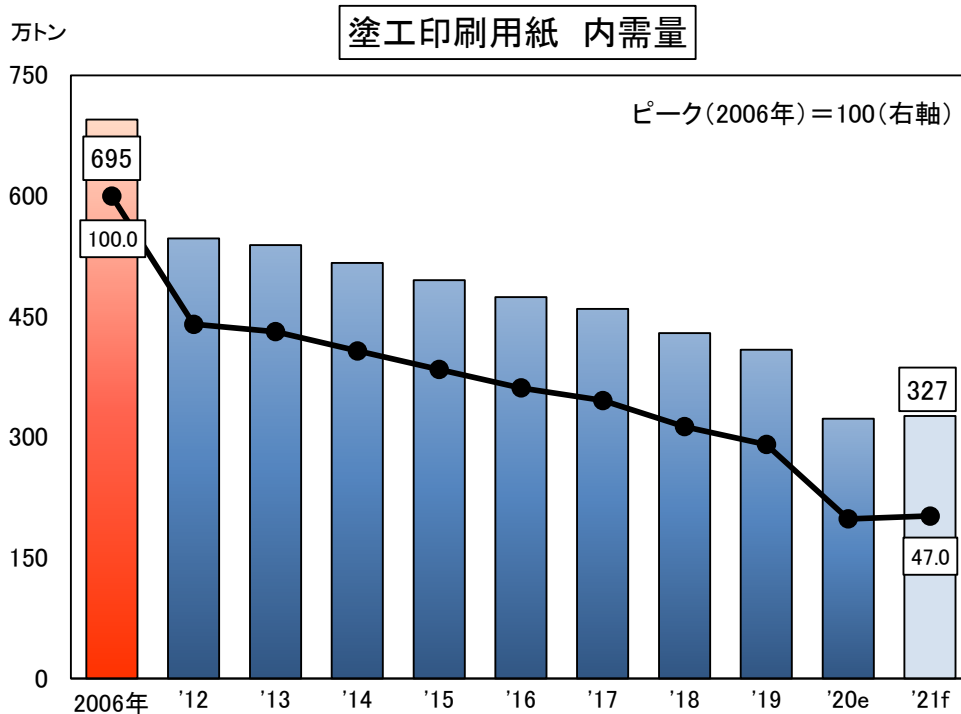
四半期推移



☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し0.5%の増加を見込んだ。前々年比では13.5%減、過去のピークだった1991年に対しては、4割の水準。

☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

# JPA (2) - ③ 塗工印刷用紙

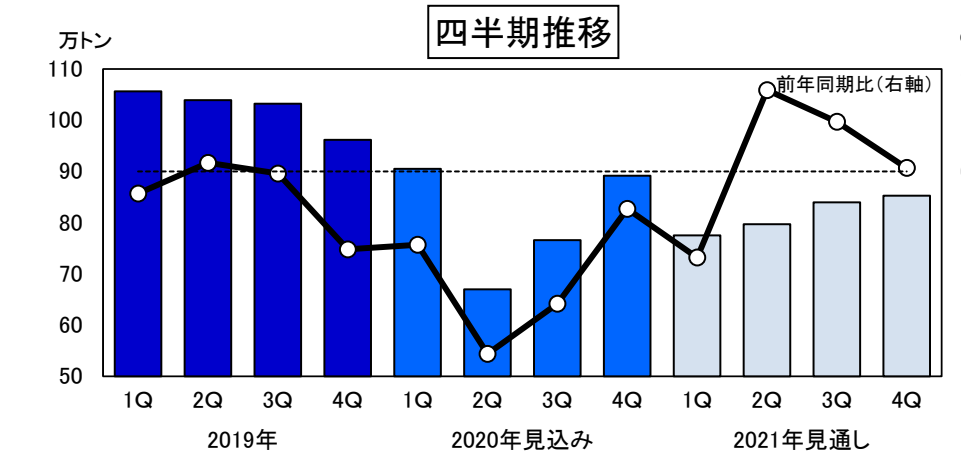


## 「近年の動向」

★塗工印刷用紙の内需は、デジタル化の進展により2012年以降はマイナスで推移している。2020年はコロナ禍によるイベントの中止、小売店や量販店等の集客案件自粛、旅行関連への影響拡大等から、カタログ・チラシ・パンフレット用途が大幅に減少。全体では前年比21.0%減と、リーマン・ショック直後の2009年(12.6%減)を上回るマイナス幅となった。

## 「2021年予測」

☆景気は緩やかな回復が見込まれ、広告市場全体としては増加が期待されるものの、紙媒体にとっては厳しい状況が続く。コロナ禍を背景として遠隔・非接触に向けた社会システムの構築が進み、コミュニケーションのデジタル化、サービス提供の非接触化が加速、集客のための印刷物は激減した。コロナ収束後もこうした変化は継続し、カタログ、チラシ等、販促用商業印刷については、部数減、枚数減、判型縮小等が続くと見られることから、前年の大幅な落ち込みの反動増は限定的と予想される。なお、東京オリンピック・パラリンピック開催による需要の押し上げ効果は、ごく僅かと見た。

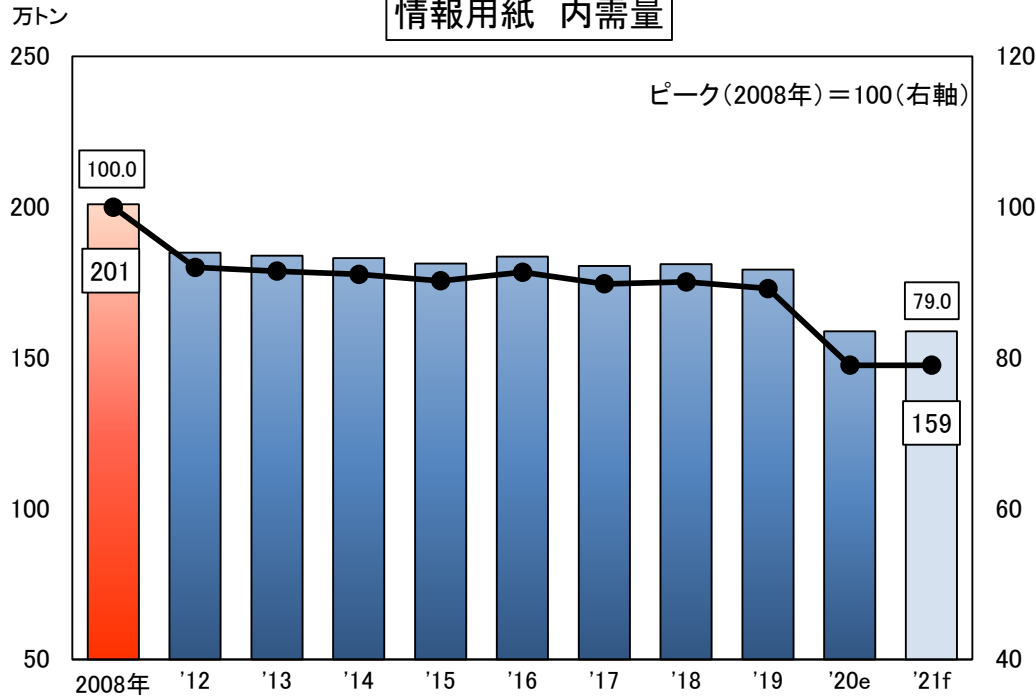


☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し1.0%の増加を見込んだ。前々年比では20.2%減、過去のピークだった2006年に対しては、5割弱の水準。

☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が極めて低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

# JPA (2) - ④ 情報用紙

情報用紙 内需量



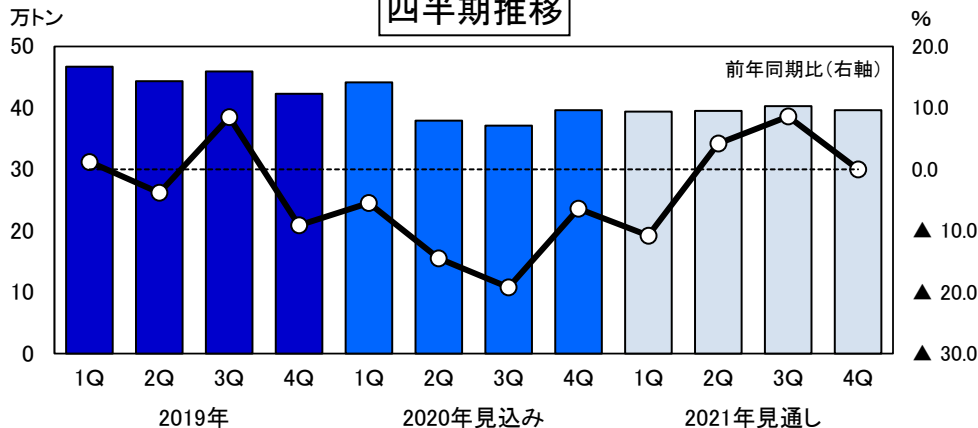
## 「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2019年までは比較的堅調に推移してきた。2020年は主力のPPC用紙を中心に、コロナ禍によるデジタル化の進展、在宅勤務拡大等の影響を受け、前年に対し11.4%減と大きく落ち込んだ。

## 「2021年予測」

☆品種別にみると、PPC用紙は、これまで汎用性・利便性の高さから底堅く推移してきたが、引き続き企業のコストダウン強化による使用量削減に加えて、在宅勤務の定着やデジタル化の一層の進展が懸念されることから減少を予想。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、全体としては、デジタル化、少量化の進展により減少すると予想。複写原紙は、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。一方、情報記録紙のうち感熱紙は、外食向けレシートで減少が続くものの、配送伝票の増加や情報印字の広がりによるレジ用途等での需要増により、前年を上回ると予想する。

四半期推移

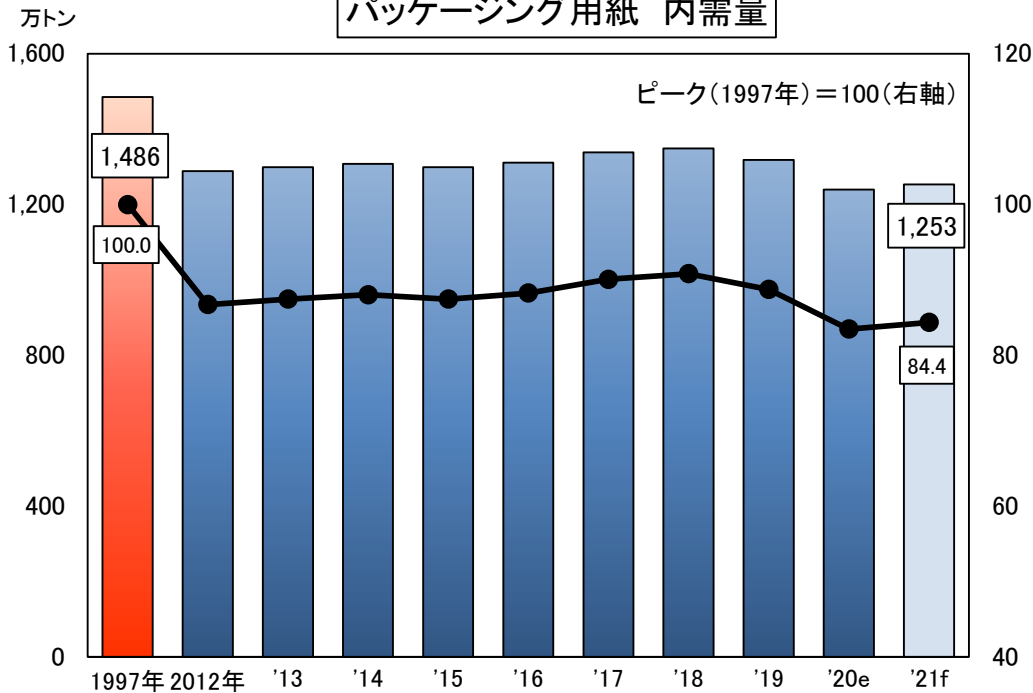


☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し横ばい(0.0%)を見込んだ。前々年比では11.4%減、過去のピークだった2008年に対しては、8割の水準。

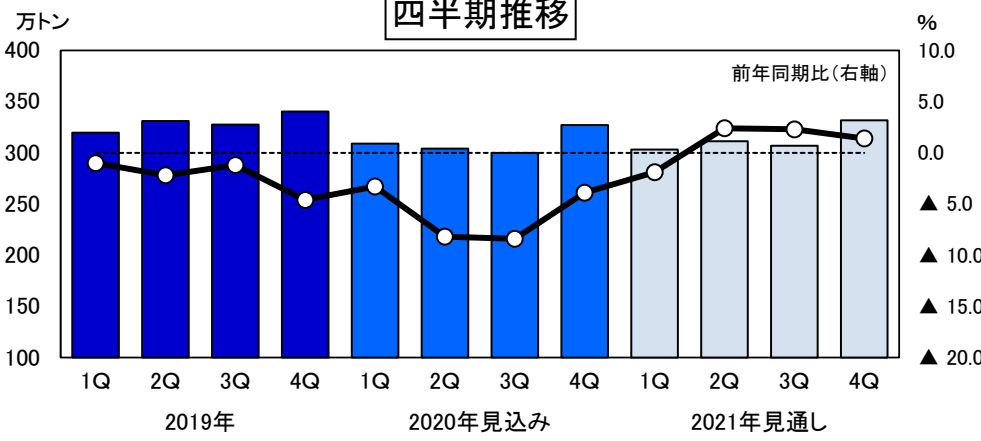
☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

# JPA (3) パッケージング用紙

パッケージング用紙 内需量



四半期推移



## 「近年の動向」

★パッケージング用紙の内需は、2010年以降、増加傾向で推移してきた。コロナ禍による影響を受けた2020年は5.9%減と前年を下回ったが、食品等生活資材、包装資材向けに使用されるこの分野は、グラフィック用紙と比べると落ち込みは相対的に軽微であった。

## 「2021年予測」

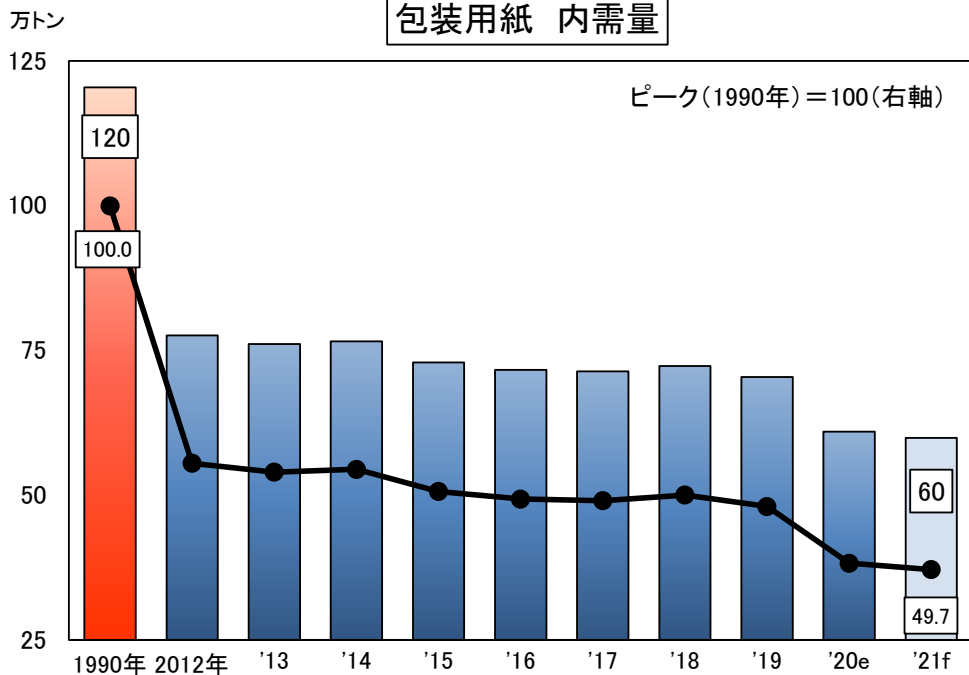
☆品種別試算結果を積み上げると、パッケージング用紙合計で内需量は1,253万トン、前年に対し1.1%増と3年ぶりのプラスを見込むも、前々年比では4.9%減。また、過去のピークだった1997年(1,486万トン)に対し、8割半ばの水準となる。

☆品種別では、包装用紙は1.8%減、段ボール原紙は1.1%増、白板紙は2.0%増を見込んだ。他素材へのシフトの継続や前年の封筒のスポット需要の反動減等があることから、この分野では包装用紙のみ減少と見た。

☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

☆詳細については当該品種頁参照。

# JPA (3) - ① 包装用紙

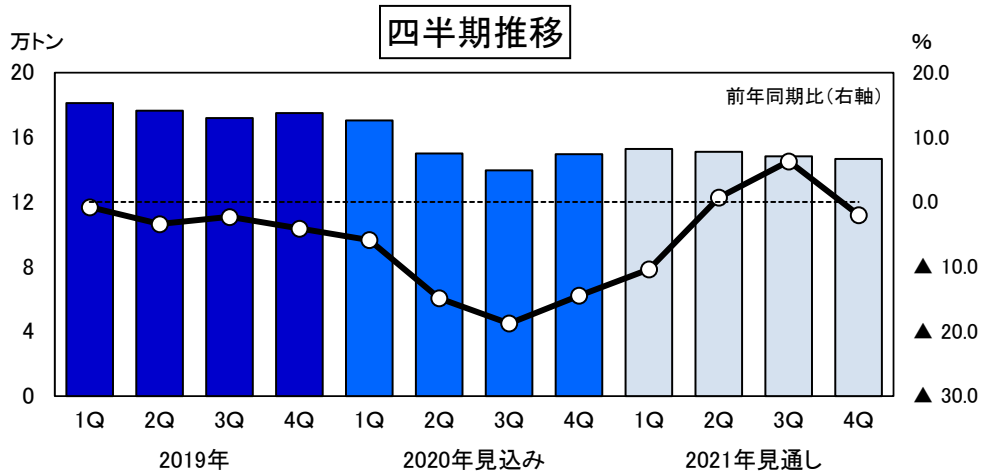


## 「近年の動向」

★包装用紙の内需は、簡易包装・省包装や他品種・ポリ袋等の他素材へのシフト、封筒需要の低迷等により、減少傾向で推移してきた。2020年は、コロナ禍による商業施設の閉鎖や7月からのレジ袋有料化に伴う紙袋の有料化で手提袋の辞退率が増加したこと等により、前年を大幅に下回った。

## 「2021年予測」

☆他素材へのシフト継続等から、全体的な需要の減少は続く。用途別には、重包装向けは外食需要の減少により米麦・製粉向けを中心に減少する。軽包装向けは、通販・宅配・食品のテイクアウト需要は期待できるが、マイバッグの利用や新しい生活様式のさらなる浸透による脱店舗(非対面・非接触化)の移行が加速し、手提袋を中心に減少する。なお、脱プラスチックによる需要の押し上げ効果は、ごく僅かと見た。

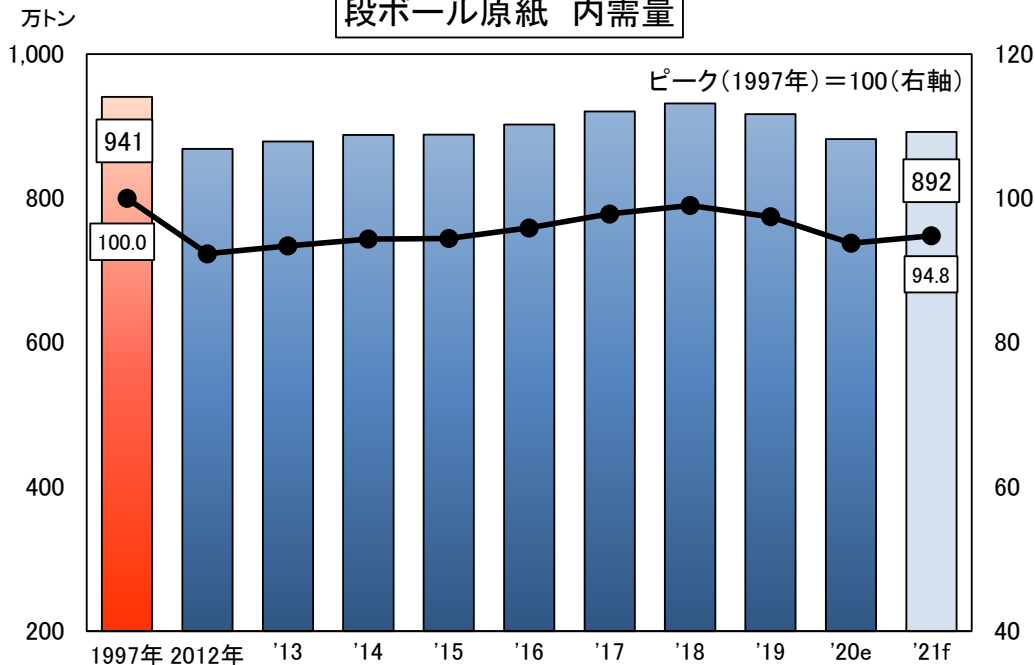


☆以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し1.8%の減少を見込んだ。前々年比では15.0%減、過去のピークだった1990年に対しては、5割弱の水準。

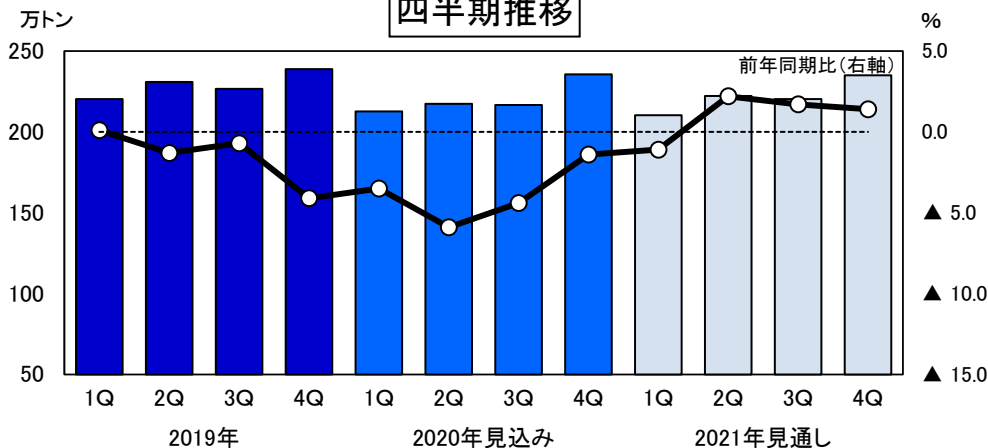
☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だった7-9月をピークに反動増が生じるが、年末にかけてマイナスに転じる見通し。

# JPA (3) - ② 段ボール原紙

段ボール原紙 内需量



四半期推移



## 「近年の動向」

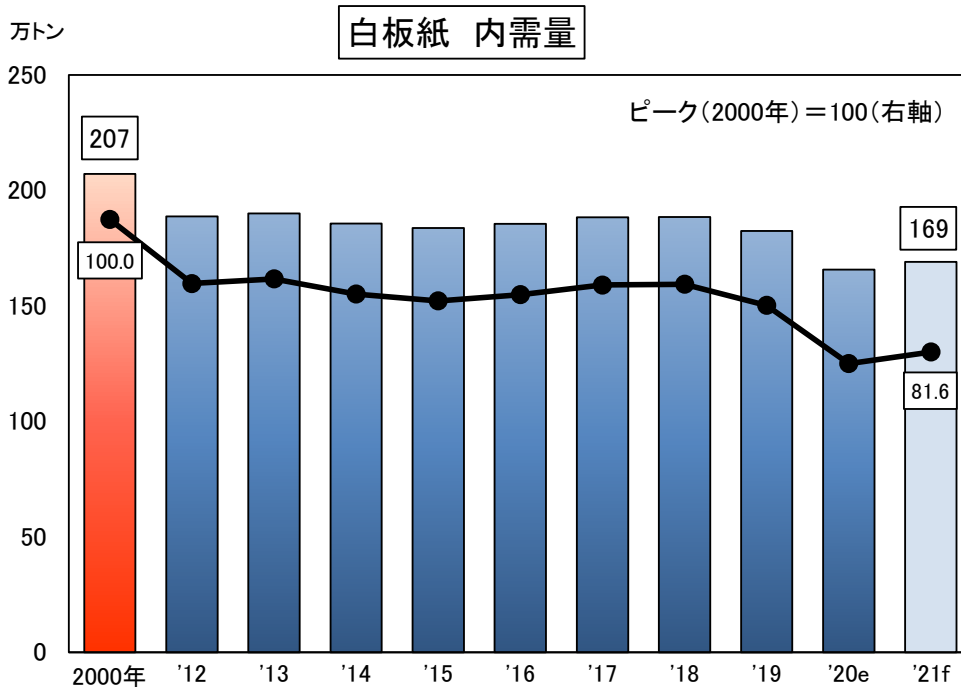
★段ボール原紙の内需は、飲料を含む加工食品向けを中心に増加傾向で推移してきた。2020年は、コロナ禍による世界経済の停滞を背景とした電気・機械器具向けの落ち込みに加え、天候不順による青果物向けの落ち込みや外出自粛を受けた飲料及び業務用食品の落ち込み等もあり、前年を下回った。

## 「2021年予測」

☆全国段ボール工業組合連合会の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.4%増が見込まれている。主要分野のうち、需要の約4割を占める加工食品向けでは底堅い内食需要に加え、業務用食品も緩やかな回復が見込まれる。電気・機械器具向け及び青果物向けは前年から回復する見通し。通販・宅配向けは簡易包装化の継続が懸念されるが、脱店舗化の進展で通販市場は成長すると予想される。段ボール原紙については、これらの需要予測及び直近の軽量化を考慮して、段ボールシートよりも若干低い伸びになると予想した。

☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し1.1%の増加を見込んだ。前々年比では2.7%減、過去のピークだった1997年に対しては、9割半ばの水準。

☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

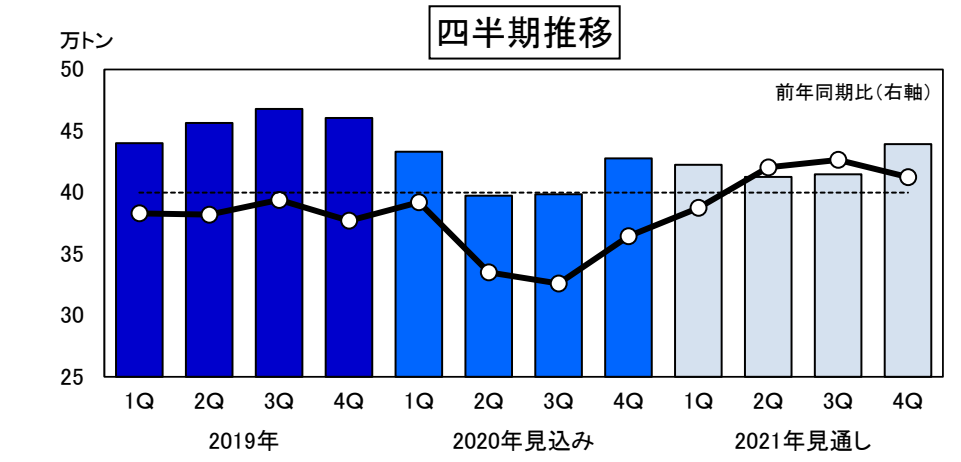


## 「近年の動向」

★白板紙の内需は、省包装化や軟包装化等が進展する中、底堅い食品向けとインバウンド効果によって緩やかな増加傾向にあった。2020年は、集客イベントの中止や外出自粛等により商業印刷向けは大幅に減少。医薬品・化粧品向けはインバウンド効果が消滅したこと等もあり減少。全体では9.2%減と、リーマン・ショック直後の2009年(7.4%減)を上回るマイナス幅となった。

## 「2021年予測」

☆内容量の減量化によるパッケージの小型化や省包装化・軟包装化の動きは継続。前年の減少の反動によるところもあるが、食品を中心とした巣籠り関連は堅調。各種イベントの開催制限の緩和等により、商業印刷・土産物向け等は増加する。また、ネット通販の拡大や食品のテイクアウト需要等としてプラ容器からの移行が期待できることもあり、全体では前年を上回ると予想される。

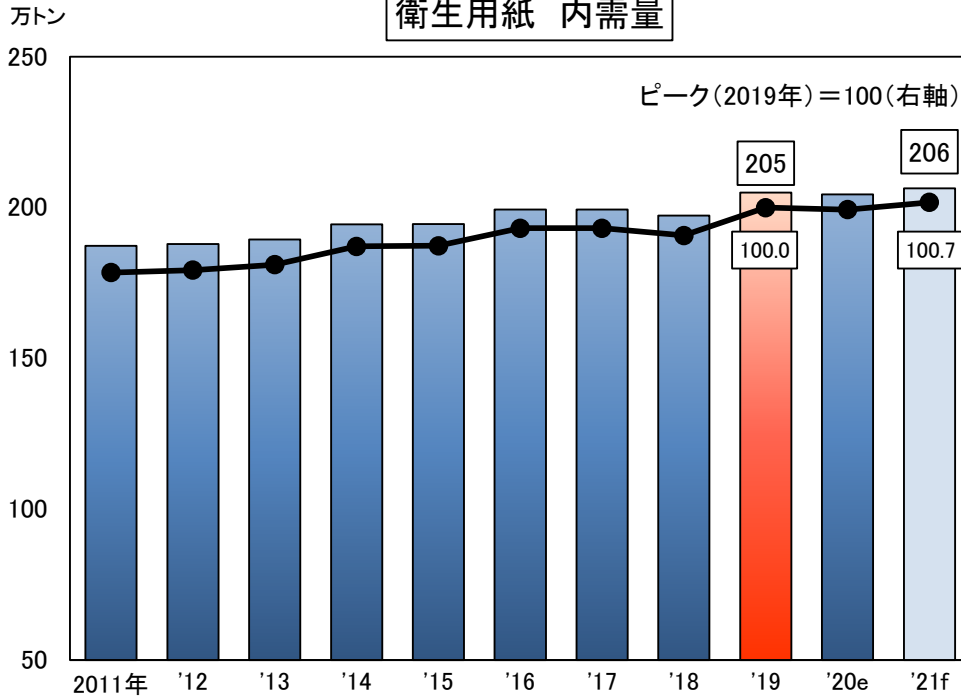


☆以上を勘案し、白板紙の内需は前年に対し2.0%の増加を見込んだ。前々年比では7.4%減、過去のピークだった1997年に対しては、8割強の水準。

☆四半期別では、1-3月はマイナス、4-6月以降は前年が低水準だったことから、反動増が生じると予想。その後、年末にかけて緩やかに増加幅は縮小する見通し。

# JPA (4) 衛生用紙

衛生用紙 内需量



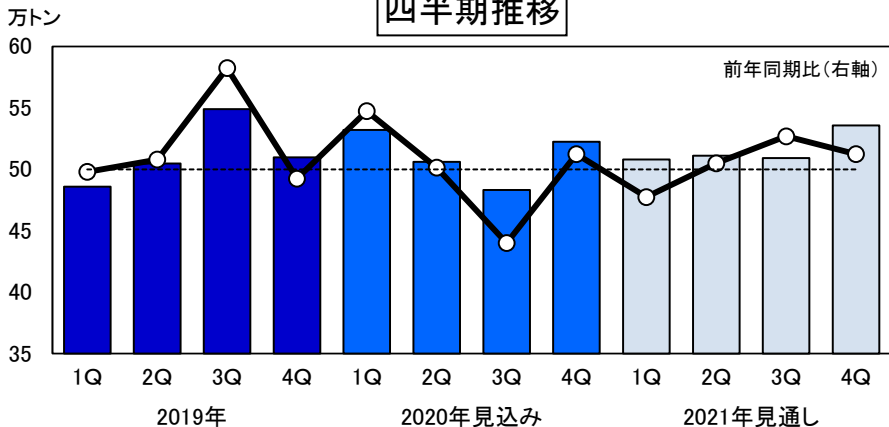
## 「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、人口減少等の構造的要因はあるものの、生活必需品としての需要や、世帯数の増加等から底堅く推移してきた。2020年はコロナ禍を背景とした供給不安から2月末より衛生用紙関連製品のパニック買いが発生し、3月の国内出荷は過去最高となったが、その後の反動減や、インバウンド需要の減少等から2020年の内需は前年比0.3%減と僅かに前年を下回る見込みである。

## 「2021年予測」

☆衛生用紙は、生活必需品としての底堅さに加えて、コロナ禍以降の衛生意識の高まり等からプラスが予想される。トイレtpーパーは業務用需要の回復が見込まれること等からプラス。タオル用紙はウイルス感染予防といった生活様式の変化により、ハンドタオルを中心に引き続き需要が増加すると見てプラス。一方、ティッシュペーパーはインフルエンザ等の季節需要が減少することが予想される他、タオル用紙等へのシフトもあり微減と見る。

四半期推移



☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は206万トン、前年に対し1.0%の増加を見込んだ。ピークだった2019年に対しては0.7%増となり、過去最高となる見通し。

☆四半期別では、1-3月は前年同期のパニック買いの反動によりマイナスも、以降の4-6月、7-9月、10-12月は緩やかに増加する見通し。



# JPA IV. 参考① 経済見通し

<2021年の年間予定、トピックス(主として2020年11月末以降の公表・報道分に基づく)>

	国内	海外
1月	日・英経済連携協定発効	米大統領就任式
2月		
3月	東日本大震災から10年	
4月		
5月		
6月		
7月	東京オリンピック(23日～8月8日)	中国共産党創立100年
8月	東京パラリンピック(24日～9月5日)	
9月	デジタル庁発足、自民党総裁任期	
10月	衆議院議員任期	G20 ローマサミット
11月		APEC首脳会議(オンライン)
12月		EU 使い捨てプラ製品の流通禁止

<日本[単位:%]>

	政府		民間(14機関平均)	
	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度
名目GDP成長率	▲4.2	+4.4	▲4.6	+3.5
実質GDP成長率	▲5.2	+4.0	▲5.3	+3.3
民間最終消費	▲6.0	+3.9	▲6.1	+3.4
民間設備投資	▲8.1	+2.9	▲8.1	+1.7
民間住宅投資	▲6.7	+1.8	▲7.5	+0.2
内需寄与度	▲4.0	+3.3	▲4.2	+2.5
外需寄与度	▲1.2	+0.7	▲1.2	+0.8
鉱工業生産[前年比]	▲11.0	+9.4	▲10.3	+7.9
国内企業物価[前年比]	▲1.8	+0.7	▲1.5	+0.6
消費者物価[前年比]	▲0.6	+0.4	▲0.5	+0.2
為替レート(円/ドル)	105.7	104.4	105.8	105.2
原油輸入価格(ドル/バレル)	39.9	44.8	41.6	50.1

<四半期別実質GDP成長率>[前期比年率%](みずほ総研)

2020/10-12	2021/1-3	2021/4-6	2021/7-9	2021/10-12	2022/1-3
+4.2	▲0.6	+3.5	+1.8	+2.6	+2.8

<世界の経済動向[実質GDP成長率、前年比%...]数値は世界銀行(2020/1)による>

	世界合計	米国	ユーロ圏	日本	中国	インド
2020年	▲4.3	▲3.6	▲7.4	▲5.3	+2.0	▲9.6
2021年	+4.0	+3.5	+3.6	+2.5	+7.9	+5.4

<企業業績(野村証券・SMBC日興証券)>

	2020年度	2021年度
[金融含まず]		
増収率 (前年度比%)	野村 ▲9.6 SMBC日興 ▲10.0	+7.6 +8.6
営業増益率 (前年度比%)	野村 ▲29.6 SMBC日興 ▲24.4	+50.9 +54.6
経常増益率 (前年度比%)	野村 ▲18.3 SMBC日興 ▲22.3	+42.2 +48.8
税引増益率 (前年度比%)	野村 ▲13.9 SMBC日興 ▲23.0	+53.5 +71.3

(注)主要企業(野村:Russell/Nomura Large Capの305社、SMBC日興:NIKKO250)の業績予想。SMBC日興の増収率及び営業増益率については、金融のほか卸売も除外。

<コロナ禍の働き方、消費行動の変容>

【働き方の変容】

- テレワークの導入～三密回避の影響から大企業を中心に導入が加速する。
- 働く場所の多様化～自宅に加え、通信環境やセキュリティ確保等のニーズの高まりから郊外型のサテライトオフィス拡充の傾向が強まる。
- 住む場所の多様化～都心への通勤回数が減少、自宅での勤務時間が増える人を中心に立地や間取りなどへの評価が変わり、郊外の広い住宅を求める動きも出てくる。

【消費行動の変容】

- EC需要の増加～外出抑制などを背景に利用が拡大。国土交通省の「トラック輸送情報」によれば、宅配便(EC以外の荷物も含む)の取り扱い個数は、2020年1月以降、前年を上回って推移、特に4-6月は前年比1割増で推移している。
- 小売業等の物流効率化～EC需要の増加に伴いネットスーパー等では専用アプリなどで受注、商品を自動倉庫から発送し、配送システムまでを一元管理するなど、効率化、省力化、人手不足への対応が進む。

# JPA IV. 参考② グラフィック用紙関連の動向

## <出版動向>

- 出版科学研究所によると、2020年の書籍・雑誌合計の販売金額は前年比約2%減の1兆2,100億円台となる見込み。そのうち書籍は約1%減、3月2日から始まった全国学校一斉休校を機に、春先に学参や児童書が「コロナ特需」と言える好売れ行きとなり、年後半もその勢いを維持した。雑誌は約2%減。「鬼滅の刃」を中心にコミックスの激増で雑誌全体の減少幅は大きく縮小。2%台のマイナスに留まるのは05年以来。

## <全国の書店数>

- 書店調査会社のアルメディアによると、2020年5月1日時点の全国の書店数は、前年同月比422店減の1万1,024店。この書店数の中で、売場面積を持つ店舗は9,762店のため、実質的書店は1万店を下回ったことに。

## <新設住宅着工(みずほ総研)>

	2019年	2020年(予)	前年比	2021年(予)	前年比
千戸(前年比)	905	812	▲10.3%	800	▲1.4%

- 2020年は消費税増税(2019年10月)の反動減として想定されていたマイナス幅に収まる見通しも、中長期的には生産年齢人口減少による市場縮小は不可避。

## <マンション供給(不動産経済研究所)>

	2019年	2020年(予)	前年比	2021年(予)	前年比
首都圏	31,238戸	24,400戸	▲21.9%	32,000戸	+31.1%
近畿圏	18,042戸	13,900戸	▲23.0%	18,000戸	+29.5%

- 2020年は緊急事態宣言中の営業自粛が影響し大幅減。2021年は全エリアが回復。都心や湾岸のタワー・大型案件は堅調維持。在宅ワークの増加などで郊外も躍進。
- 2020年はコロナ禍の影響により大幅に下振れ。2021年はコロナ前の2019年水準まで回復。在宅勤務等で広面積住戸への需要が旺盛に。

## <ペーパーレス化に向けた動き>

- ・行政～河野太郎規制改革相は、行政手続きで必要な認め印を全廃すると発表。
- ・東京都～デジタル化推進のため、はんこの押印廃止、コピー用紙削減、都立施設でのキャッシュレス化など「5つのレス」の徹底方針を決定。「ペーパーレス」では21年度の目標を、16年度の約2億枚から50%減の約1億枚に削減。
- ・東京海上日動火災保険～契約から支払いまでインターネット上で完結できる仕組みを導入。年約1600万件の紙を伴う手続きを21年から電子データに切り替え、23年までにペーパーレス化へ。
- ・あおぞら銀行～20年度中にほぼ全ての店舗業務をペーパーレス化へ。
- ・日立製作所～21年度中に社内での押印を全面的に廃止へ。グループ全体でのペーパーレス化も進め、20年度は国内事業で使う紙を、19年度から5億枚(約7割)少ない2億枚に減らす計画。
- ・クボタ～21年にはオフィス部門で450万枚の紙を削減へ。
- ・サントリーホールディングス～22年までに、グループ社員約1万人の業務をペーパーレス化へ。契約書の作成や支払いなど一連の業務をオンライン上で完結する仕組みを整備。
- ・IKEA～70年にわたり発行してきた紙のカタログ廃止を発表。ピークの16年には50以上の市場で計2億部配布。昨年はIKEAオンラインストアでの売上が全世界で45%増加。
- ・ブルーナ～若年女性向けファッション通販「ジーラ」のカタログを、22年3月期をもって廃止。同事業をネット販売専用ブランドとして再出発へ。
- ・富士ゼロックス～電子署名サービスの販売件数は7～9月に4～6月の約10倍。19年に68億円だった電子契約サービスの国内市場は24年に264億円になる見込み。

## <ICT・メディア市場(野村総合研究所)>

	2019年度	2020年度	2021年度	2026年度
5G対応端末の販売台数(万台)	0	107	388	3,200
動画配信市場(億円)	2,286	2,732	2,940	3,247
ファクトリーIoT市場規模(億円)	5,410	5,404	5,975	11,007

- 5Gサービスは、緊急事態宣言や東京オリンピック・パラリンピックの延期により、足元の普及進まず。
- 動画配信は、コロナ禍の「巣ごもり消費」の一つとして利用が拡大・定着。
- ファクトリーIoT市場は、AR(拡張現実)やセンシング技術を搭載した生産設備が拡大することで、2026年の市場規模が1兆1,000億円超に。

# JPA IV. 参考③ パッケージング用紙関連の動向

## <大型商業施設の出店・開業>

- USJで任天堂のゲームの世界を圧倒的なクオリティとスケールで再現した「SUPER NINTENDO WORLD」が2月に開業予定。
- 神戸三宮駅ビルとして建替中の地上29階建ての神戸阪急ビル東館の上層部に209室からなる宿泊特化型ホテル「レムプラス神戸三宮」が3月に開業予定。
- JR熊本駅東口の地上12階建てのJR駅ビルにJR九州の商業施設「アミュプラザくまもと」が4月に開業予定。
- JR東京駅日本橋口前に地上38階建ての「常盤橋タワー」が6月に竣工予定。
- みなとみらいにプラネタリウム等を併設した地上21階建ての「横濱ゲートタワー」が冬に開業予定。

## <国内ビール類市場>

- 2020年の発泡酒と第3のビールを含めた国内ビール類の市場は16年連続で縮小。コロナ禍による業務用市場の落ち込み等が響いた。ビール大手3社のうち、サントリーは2021年の国内ビール類市場(ノンアルコールビールテイスト飲料除く)を前年比3.0%減と予想する。一方で、各社が発表した2021年のビール類の販売数量は、消費者のニーズの変化に対応し、高付加価値品の投入等により新たな飲用需要の創造を図ることで、前年比でサッポロは4.8%増、キリンは1.6%増、サントリーは1.0%増を見込む(アサヒは販売金額ベースで6.4%増)。

## <脱プラスチックに向けた小売・外食企業の環境対策>

企業名	主な取り組み
青山商事	ビジネスウェア事業の全店で使用しているプラスチック製の買物袋を紙袋に順次変更し、2020年7月1日から有料化。
ローソン	2020年11月3日から、店内淹れたてコーヒー「マチカフェ」で使用しているプラスチック製アイスドリンク用カップのMサイズを来春にかけて紙製カップに変更開始。
日本KFCホールディングス	全国のケンタッキーフライドチキン店舗で提供する紙製パッケージ全てを、2020年度中にFSC認証紙に切り替える。
セブン&アイ・ホールディングス	2030年までにプラスチック製レジ袋を廃止。

- 消費者が原材料の調達や製造過程で環境に配慮した商品を選ぶエシカル(倫理的)消費の浸透、2020年7月からのレジ袋の有料化義務付け開始等により、脱プラスチックの動きは加速している。環境省が実施した「みんなで減らそうレジ袋チャレンジ」キャンペーンでは、レジ袋を1週間使用しない人の割合が2020年3月時点の約3割から12月時点で71.9%となり、当初目標の約6割を達成。今後も、紙を含めた他素材への切り替えの促進が予想される。

## <近年の百貨店のEC事業の強化に向けた対応>

企業名	主な取り組み
三越伊勢丹ホールディングス	2019年2月に幅広い化粧品を扱う専用サイトを開設。同年11月にはプラチナコスメを扱う姉妹ストアを開設。2020年7月には非接触サービスへの取り組みとして、資生堂とともにライブストリーミングサービスを導入。
小田急百貨店	2020年9月に中国向けの越境EC事業を開始。上海に拠点を置く上海橙感信息科技有限公司(チェンガン)と協力し、同社が運営しているWeChat内で運営するミニプログラム「橙感(チェンガン)」で販売を開始。2021年までに250点の商品展開を目指し、新型コロナウイルスの影響で激減したインバウンド需要を補う他、中国本土での認知度向上を狙う。
高島屋	2020年10月に開催された物産展をWeb上でLIVE配信し、リアルタイムで地域の特産品を購入することが可能となるとともに、現地の生産者やバイヤーを登場させて物産展を盛り上げることで、物産展の新たな楽しみ方を提案。
松屋	2020年11月にタクシー会社と連携し、ネット通販に苦手意識を持つ高齢者をターゲットとした買い物代行サービスを開始。注文は電話で受け付け、販売員が商品を選定後にタクシー会社が集荷し、自宅へ配送される。

- 新型コロナウイルスの影響で来店客数が減少し、訪日外国人による免税売上高も落ち込む中、百貨店各社はEC売上高の伸長に期待を寄せている。

## <自動車市場の見通し(日本自動車タイヤ協会)>

	2019年	2020年(予)	前年比	2021年(予)	前年比
生産台数(千台)	9,684	8,063	▲16.7%	8,654	+7.3%
国内販売台数(千台)	5,195	4,579	▲11.9%	4,869	+6.3%

- 2021年の自動車生産台数は、増加へ転じる見通し。しかし、2019年比では9割程度にとどまる見通し。

### 内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー、タオル用紙及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

### 予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリング及びアンケート調査(2020年11月下旬実施)による積み上げを基に試算している。

なお、予測値及び見込み数値等は2020年末時点で得られた11月までの実績を基に作成した。